

2. 将来の航空交通システムの目指すべき目標について

(1) 安全性の向上

- 安全性の向上は将来の航空交通システムの構築において最重要課題
- 管制業務等に起因する重大インシデントはヒューマンエラーに関するものが大半であることから、ヒューマンエラー対策を推進
- 小型航空機の運航上の特性を十分考慮した安全対策
- 大規模災害時等における業務の継続性を高めるため、危機管理対応能力を向上
- 通信、航法、監視の相互の依存が強まり、個々のシステムの脆弱性が航空交通システム全体に波及することから、更なる信頼性及びセキュリティを確保

(2) 航空交通量の増大への対応

- 長期的には我が国の航空交通量は増加が見込まれるため、引き続き、全体の容量を拡大
- 特に、首都圏をはじめとする混雑空港や混雑空域においてボトルネックの解消、新しい技術の積極的な活用による処理能力を向上
- 上空通過機を含めた国際航空交通の増大への対応

(3) 利便性の向上

- 新幹線等の他の交通機関との競争や利用者の高いニーズに対応し、定

時性や就航率の更なる向上

- 航空の持つ本来の特性である Gate to Gate での速達性を向上
- 悪天候時等における小型航空機の安全かつ安定的な運航の確保

(4) 運航の効率化

- 更なる経路短縮、出発・空中待機の減少等運航コストの低減
- 運航の効率化により、航空交通ネットワークの維持・拡大に貢献

(5) 航空保安業務の効率性向上

- 新たなシステムの導入、業務の集約化、民間活力の活用等による更なる業務の効率化
- 空港等の交通実態に応じたレベルの施設整備や業務内容

(6) 環境への配慮

- 航空分野におけるCO2排出量の削減
- 航空機の騒音対策

(7) 航空分野における我が国のプレゼンスの向上

- アジア太平洋地域における安全で円滑な航空交通の実現、地球規模の環境問題への対応のため、諸外国と連携強化

- 我が国FIRを飛行する航空機に対する管制サービスの向上、航空先進国としての途上国への国際協力等の国際貢献
- 我が国の航空関連産業のグローバルな展開を支えるため、国際標準化過程での官民一体となった取組